

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくりまします。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくりまします。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくりまします。

としおかし

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TFL 36-0231
宇都宮市立東図書館 今泉町2137番地 〒321 TEL 38-5614

企画展

The 雷 in utsunomiya

驚いたのは？
今回の展示は、宇都宮についての一層の理解と親しみを深めていただけるように、雷に関する資料を集めてみ

夏の風物詩である雷は、その多さと激しさで、宇都宮の天気の特徴となつています。はじめて、宇都宮に移り住んできて、夏を迎えた人は、あのものすごいイナズマと激しい雨、そして、ガラガラピシャゴロゴロという大雷鳴に

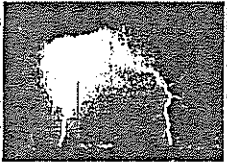
ました。

一階ロビー＝宇都宮 雷都物語に関するもので、「会議所ニュース」と新聞記事、宇都宮大工学部電気電子工学科、通称「カミナリ研究室」に関する新聞記事、平出神社（平出雷電神社）に関する

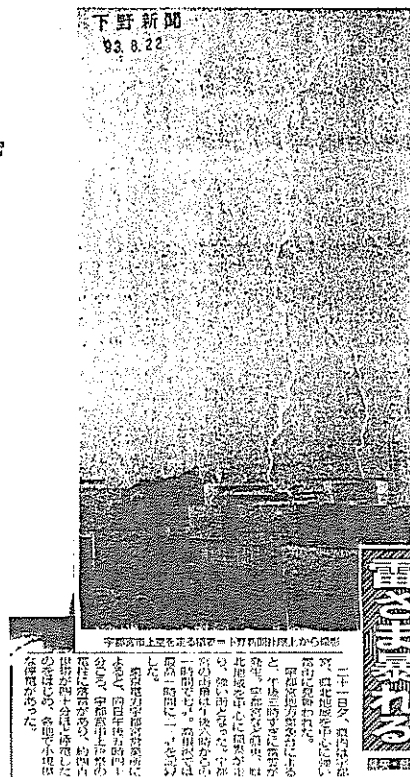
2カ月でわずか3日

日照不足で雷雲できず

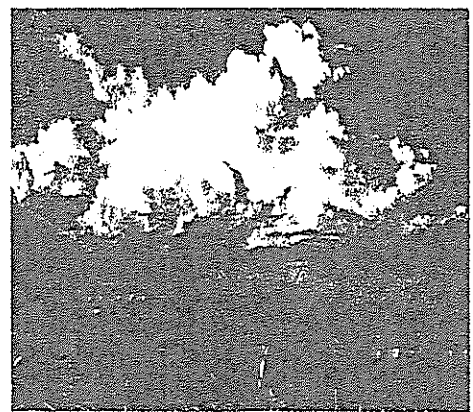
今夏はおとなしい雷様



「助かってます」
「まだまだ備えを」



雷をまのあたりに



もので、「とちぎの神社めぐり」

栃木県青年神職むすび会発行、

「うつのみや重宝記第14号」随想

舎発行、他に、「物語宇都宮あれ

これ」（雷は火の玉だった）蝶良

政雄著などです。

二階ロビー＝子供向けのお話

として、「だるまちゃんとかみな

りちゃん」加古 里子さく／え、

福音館書店発行を展示します。

三階ロビー＝芸術、自然科学、

民俗、文学の資料のうち雷と関係

するもので、「栃木のお天気こと

わざー21世紀との接点」青木慶

一郎著、下野新聞社発行、「栃木

の雲」鈴木 正一郎著、栃の葉書

房発行、「天気100のひみつ」学習

研究社発行、「お天気と野山のど

うぶつ」岸田 鈴子文、日本書籍

発行、「栃木県の気象百年」宇都

宮地方気象台編集発行、「栃木県

の気象と天気俚諺」鈴木 林治著

「かみなりむすめ」斉藤、隆介作、

滝平 二郎絵、岩崎書店発行、

「てんぐだいこ」神沢 利子文、

赤羽 末吉絵、偕成社発行、「ぼ

ろ・びこ・ぼろのゆうだち」いわ

むら かずお著、至光社発行、

「雷さまと桑の木」まんが日本昔

ばなし第35話、二見書房発行、

「春雷」立松 和平著、河出書房

新社発行など、多数、展示します。

全国には、雷様を祀った神社が

たくさんあります。宇都宮にも、

平出雷電神社があり、雷が雷神様

とも呼ばれ、人々の信仰の対象と

なっていたことがわかります。昔

の人にとって雷は、恐れであり、

又、雷雨が、田や畑にめぐみをも

たらすものであったのです。

雷は、現在の科学においても、

魅力的な存在でまだまだ謎が多く、

研究が望まれています。

(展示場所、市立図書館各階ホール)

第10回「うつのみやこども賞」

表彰式・受賞記念講演会

平成6年5月15日(日)

『八月の恐竜』の著者

三田村信行氏を迎えて

〔表彰式〕

まず、平成5年度選定委員から三田村氏へ表彰状の授与が行われました。選定委員を代表して、塩沢直子さん、浜本階生くんから表彰状を、杉本沙知さんから花束を

それぞれ渡しました。

続いて選定委員への感謝状と記念品の贈呈に移り、式は滞りなく終わりました。

〔講演会〕

引き続き、受賞記念講演会に移りました。

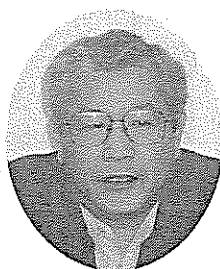
三田村氏は、子どもの読書はなれが進む中、選定委員の子どもたちが、年に60冊もの本を読み、

その中から一番おもしろい本として『八月の恐竜』が選ばれたことに今後新しい本を書いてゆく上で、勇気づけられたと、受賞をたいへん喜んでくださいました。

受賞作の『八月の恐竜』に関しては『ぼくが恐竜だったころ』の執筆中に構想がうかんだことや、取材のために、東京の府中刑務所や富士の樹海に

足を運ばれたことなど、執筆にまつわる裏話を聞かせてくださいました。

また、ご自身の子供時代の話交えながら、選定委員の子どもたちに対して、子どもの時にしか読めない本や今読むことが大切な本があると語られ「大人になればいくらでも好きな本が読めるから」と、読む事を順おくりにしたのでは意味がないと語られました。



さらに「読書」とは、自分自身の心に従って、どこで、どんな姿勢で読んでも全く読み手の自由であるし、本を書く作業も書き手が楽しい、面白いと感じることが大切であり、この「本を読む事」「本を書く事」が人間の「自由さ」の大切な所を表現していると思うと

第10回「うつのみやこども賞」受賞記念講演会



〔質疑応答〕

Q…作家になった理由は?

A もともと本や物語が好きで自分でも面白いものが書けるような気がしていた。最初は職業にしようとは考えなかったが、出版社で他の人の本を作っているより、楽しそうだし、てっとり早いと思ったから。

Q…好きな本は?

A 自分の本では『ゆめのなかへわすれもの』『とけない

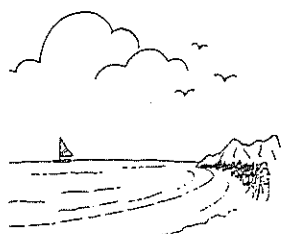
強調なさっていました。

ゆきだるま」
他の人の本では、小沢正の『目をさませトラゴロウ』とマーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』『トム・ソーヤの冒険』など。

Q…先生の作品に異世界に行った主人公がハッピーエンドにならない作品が多いのはなぜ?

A 主人公が別世界に行つて学んで帰つてきて元の生活に戻つてゆくという話は、それはそれでいいけれど、それだけでは物足りないと感じる。一度別世界に行つてしまつたら現実が自分かのどちらかは変わつていなければならなと思うし、読者がそこで何か考えてくれればよいと考えているから。

その他多数。



障害者サービス その1

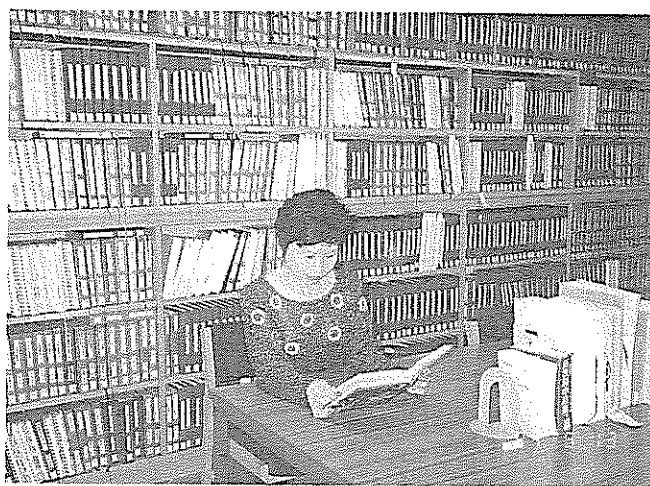
宇都宮市の図書館は、「いつでも、どこでも、だれでも」を基本的な考え方としてサービスを行っています。今回から何回かに分けて、みなさんにはあまり知られていない障害者サービスについてご紹介していく予定です。

宇都宮市の図書館では、昭和56年の開館以来、「図書館利用に障害のある人々へのサービス」を図書館の基本目標の一つに掲げ、図書館に直接来館することの困難な人々へ郵送貸出を行ったり、活字で書かれた資料を読むことのできない視覚障害者に対して点字本や録音図書（テープ）を作成して貸出を行っています。

また、視覚障害者へのサービスで、点字・録音図書の作成には、かなりの時間がかかってしまったため、その時間的ハンディキャップを埋めるために、「対面朗読」というサービスも行っています。これについては、次号以降でももう少し詳しくご紹介することといたします。

先にてきた「点字」という言葉は、視覚障害者が、指先の触覚を便りにして読む文字で、一つの固まりが6個の点の凹凸の組み合わせ

わせによってできていくものです。視覚障害者は、その点の凹凸を指先で読みとっていきます。このような文字があることによって、視覚障害者も自ら文章を書き、読書を楽しむことができます。



作成された多くの点字本

る活字資料が出版されてから、それぞれの作業に着手するため、時間的ずれが生じてしまうこと、さらに、この作業は、実際の作業にはいるまでに読みの調査を行った、実際の作業において、かなりの労力と時間が必要であることから、当館で所蔵している80万余の資料すべてを提供することは不可能です。利用者のみなさんの希望・要求のあったものから作業を進めることで、少しでも視覚障害者の読書環境を一般の方たちのそれに近づけられたらと考えています。



録音図書の作成風景

また、成人を迎えてから失明をしてしまった方は、点字を覚えるのに時間がかかってしまったため、録音図書を利用していただくことによって、読書の楽しみや、社会の一般的な情報を知ることが出来ます。そして、少しずつ点字にもふれていただき、自ら本を読む喜びなどを味わっていただけたらと思います。

しかし、点訳・音訳は、元とな

郷土資料コーナー

栃木県の植物

アジサイの花が青く染まる六月が始まりました。クリの花が落ちるのも六月。豊かな雨に恵まれ、多くの草花が、活発に成長し始める季節です。さて、そこで今回は、身近な郷土の花や植物を楽しめる「栃木県の植物」の本をご紹介します。

います。

「花とちぎ路」

小杉国夫著
下野新聞社発行

県内の花の名所一二〇ヶ所を季節によって、早春・春・初夏・夏・秋と分け、花の種類ごとに順に紹介しています。栃木県の花の名所を訪ねるのに良いガイドブックです。



「栃木の高山植物図鑑」

栃木県植物同好会著
下野新聞社発行

栃木県の高い山に野生する、二九九種類の植物を紹介する図鑑で

す。早春の花から秋の紅葉へという季節の移りかわりに沿って、写真と一緒に、植物の解説をしています。

「日光杉並木街道の植物」

今市の自然を知る会編

日光杉並木の敷地に生える植物について、今市の自然を知る会が、四年間にわたる調査によって得た資料をまとめたもので、八〇七種の植物を掲載しています。

このほかに、栃木県の園芸の本として、次のようなものもあります。

「四季を楽しむ家庭園芸」

栃木県農業者懇談会編、発行

栃木県の気象と土壌などの実情に沿って、県内の家庭で楽しめる花、果樹等の栽培の方法を書いた本です。

四季を楽しむ家庭園芸



お知らせ

平成6年度 読書会推進講座

「桜と日本人」

▼日時 6月26日(日) 午後1時30分～午後3時30分

▼場所 市立図書館三階集会室

▼講師 小川和佐氏

▼内容 近代文学を通して、桜と自然が日本文化の伝統にどのように関わってきたかを語る。

▼定員 50名

▼申込 6月14日(火)午前9時30分から直接又は電話で市立図書館へ。

☎36-0231

―講師紹介―

小川和佐(おがわかずすけ)氏

明治大学文学部講師。元栃木県

公立高校教師。宇都宮市在住。

主な著書に、「桜と日本人」

「桜の文学史」、「桜賛歌」など。

講演

現代詩とユーモア

短詩型文学について、去年に引き続き、小林幸夫先生のユーモア溢れるお話です。ユーモラスな詩の数々を味わいながら、詩の心髓に触れてみませんか。

・日時 平成6年7月17日(日)

午後1時30分～午後3時

・場所 市立東図書館三階集会室

・講師 小林 幸夫氏

・(上智大学文学部助教授で「恋愛の近代文学」などの著作あり)

*定員 50名

*受講料 無料

*申し込みは、7月7日(木)午前9時30分から、直接または電話で東図書館まで ☎38-5614

データベース利用法講座

データベースをもっと身近に―日経テレコンを使って―

機会に、データベースの世界を体験してみませんか。ぜひご参加ください。

・日時 平成6年7月10日(日)

午前10時30分

午後0時30分



「夏休みおはなし玉手箱スペシャル」へ

毎月第二土曜日に行っている

「おはなし玉手箱」のスペシャル版

平成6年8月6日(土曜日)

午後1時30分～3時

市立図書館三階集会室

小学生から大人の方まで楽しんでいただける、すばなしによるおはなし会です。

どんな楽しいおはなしがでてくるか、ぜひ、おでかけください。

プログラムは請うご期待!!

・場所 市立東図書館三階集会室

・講師 加勢 啓三氏

富士原 敦氏

(株)日本経済情報事業部

*定員 30名

*受講料 無料

*申し込みは、6月2日(木)午前9時30分から、直接または電話で東図書館まで ☎38-5614

第71回落語会

視力障害者鑑

賞用テープ作成

のための落語会

を、のんき亭喜

楽一門の協力に

より開催します。

みなさまの拍手や笑い声がいちばんのおくりものです。

ぜひ、おでかけください。

・日時 7月23日(土) 午後3時

・場所 市立図書館三階集会室

・出演者 のんき亭喜楽一門会

・入場料 無料

☎36-0231



特別整理期間(休館)のお知らせ

お知らせ

市立図書館は6月1日(水)から6月10日(金)まで行いましたが続いて市立東図書館で行います。

6月14日(火)から6月23日(水)まで

この期間、所蔵点検、書架の移動など、日頃実施できないような整理作業を行いますので休館となります。

皆様には大変ご迷惑をおかけすることになりますが、ご協力をお願いいたします。なお、お急ぎの方は開館している方の図書館をご利用くださるようご案内します。

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時(ただし、児童図書室は午前9時30分～午後5時)

○休館日

・毎週月曜日

・国民の祝日

・毎月第二日曜日(市立)

"第四" (市立東)

・図書整理日(毎月初日、ただし初日が土・日・月の場合は次の火曜日)

○講座の問合せ・申込みはそれぞれの図書館に電話(表紙に掲載)または直接どうぞ

6月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					①	②
3	④	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

○=休館日 □=市立図書館のみ休館 ▢=市立東図書館のみ休館